

平成24年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A 1	取組 名称	学際的・国際的視点にたつ京都学構築のための方法的探究
研究代表者： 文学部		職・氏名： 教授・櫛木謙周	
研究担当者： 京都府立大学（藤原英城、金澤哲、上田純一、上杉和央、青山公三、野田浩資、大谷貴美子、大場修、宗田好史、福井亘、高原光（敬称略） 外部協力者（井口和起氏、福島幸宏氏、井上典子氏ほか）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府立総合資料館 など			
【研究活動の要約】			
<p>今回のACTRでは、2014年を目途に開設が予定されている国際京都学センターにおける共同研究のあり方を考えることを目的として、京都府立大学の教員を中心に、京都府立総合資料館の方々を研究協力者として計8回の研究会を行いました。取り上げた具体的素材は、宇治茶や京町家など、「食」「住」の生活文化、天橋立などを例に自然や文化の環境の問題、あるいは『京童』や三島由紀夫の『金閣寺』などのテキストから京都をどう読み解くかなどで、人文・社会・自然の分野をまたぐ議論の場をつくることを企図しました。一方、京都学の国際的な交流のために、中国陝西師範大学の国際長安学研究院の先生方を招聘して、同研究院の組織や運営のあり方、長安学の研究分野などについて知識を得るとともに、中国の文化遺産の現状・課題などについて議論しました。さらに、京都府立総合資料館と共催で国際シンポジウムを行い、ユーラシア規模でみた古都の中における京都の位置づけや、長安を例にした古都空間の問題、宣教師たちによる外から見た京都、茶をめぐる日中の交流史、宇治茶生産の現状と課題などを取り上げました。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>研究会のもち方として、大学や資料館の研究者だけではなく、自治体や関連機関、あるいは一般府民の方々をゲストとして迎え、既存の学問分野を越えた学際的な交流を実現できました。特に、宇治茶生産農家の方と同じテーブルで研究会やシンポジウムで議論し、文化を支える生業の視点の重要性を改めて認識したことは重要でした。このような生業を含む衣食住の生活の視点は、京都の文化を考える上で欠かせないものであり、それをとりまく自然環境や文化的景観の問題と共に、今後学際的かつ国際的な視点からアプローチすべき課題であることが明確になりました。また、資料館等と協力して、京都に関するさまざまな資料を収集し、保存・分析・活用する上で、紋切り型の京都イメージを改めて、新しい視点からのアプローチが求められていることについても共通認識が得られました。</p> <p>以上のように、京都学として議論してゆく場やテーマをどのように設定してゆくかという点について、一定の具体的イメージを描くことができたことが大きな成果といえます。</p>			
【研究成果の還元】			
H24/12/9 京都市キャンパスプラザ京都 一般約140名 「国際シンポジウム：ユーラシアからみた京都」報告書『学際的・国際的視点にたつ京都学構築のための方法的探究』（府大図書館・府立図書館・府立総合資料館等で閲覧可）			
【お問い合わせ先】		文学部（研究科） 歴史学研究室 教授・櫛木 謙周 E-mail: kushiki@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）



第5回研究会の様子

理系と文系の知の融合がはかられました。



第7回研究会の様子

中国・西安から講師をお招きし、国際長安学と国際京都学を比較しました。



国際シンポジウムの様子

国内外 5名からの報告とパネルディスカッションがなされました。